

小学校低学年における動画サイトとのつきあい方学習教材の開発

今度珠美（鳥取大学大学院）・原克彦（目白大学）

概要：小学校低学年で実践する動画サイトとのつきあい方学習教材を開発した。本教材は、指導案、ワークシート、プレゼンデータ、紙芝居、事前保護者アンケート、保護者宛文書を提案し、指導者が容易に事前準備をできるよう工夫した。学習は、動画サイトの特性を理解し、利用にあたって、守るべきことを考え、より良い視聴の仕方を考えることができるカリキュラムとした。保護者と連携して学びを継続できるよう、ワークシートの保護者欄、保護者宛文書の活用など、家庭と学習内容を共有できる工夫も提案した。本教材の概要と、小学校2年生での実践例を報告する。

キーワード：情報モラル教育，小学校低学年，動画サイト，教材開発，保護者

1 問題の所在

内閣府「低学年層の子供のインターネット利用環境実態調査」(2017.1)によると、9歳のインターネット利用状況は約66%で、そのうち一人で操作することがある子どもは、約86%となっている。利用内容は動画サイトの視聴が約83%と最も多く、インターネットを利用する低学年児童は、動画サイトをよく利用し、一人で操作している傾向が読み取れる。

多くの無料動画サイトは、アニメや音楽、投稿動画、知育番組など多様なコンテンツを揃え、気軽に視聴できる反面、暴力、アダルト、殺人、自傷行為など子供には不適切な動画も公開されている。また、第1筆者が行なった保護者対象の低学年児童のインターネット利用状況アンケート調査の結果では、寝具に持ち込んでの視聴、深夜の利用など、精神面、身体面への影響が考えられる利用が一定数みられた。(表1)

このような背景を踏まえ、筆者らは、低学年児童を対象とした動画サイトとのつきあい方を考える学習教材が必要と考えた。教材は、保護者と学習内容を共有するための工夫も検討した。

本論では、「動画サイトを見るとき気をつけることを考えよう」という教材の概要と、小学校2年生での実践例を報告する。

表1：平日のインターネット利用について、「あてはまる」「少しあてはまる」と回答した保護者の割合

| 質問内容 | 割合 |
|---------------------|-------|
| ベッドや布団の中でも利用することがある | 27.8% |
| 夜11時を過ぎても利用することがある | 27.8% |
| 利用時間が2時間を超えることがある | 33.3% |

(2017.6 鳥取県小学校2年保護者18名対象)

2 研究の方法

(1) 調査対象および調査時期

- ・対象 鳥取県A小学校2年性20名
- ・実施時期 2017年6月

実践前に2年生保護者を対象にインターネット利用に関するアンケート調査を実施した。実践は(図1)の授業の構成に従い、担任教諭と第一筆者が授業を行った。児童が授業で使用するワークシートには「保護者記入欄」を作成し、授業後、学習内容を踏まえて家庭で話合いの場を持ち、保護者が感想を記入する流れとした。

対象とした児童数と感想の記入があった保護者数は(表2)のとおりである。

表2：児童数と感想を記入した保護者数

| 学年 | 児童数 | 保護者数 |
|-----|-----|------|
| 2年生 | 20人 | 18人 |

(2) 題材目標

動画サイトを視聴する上で、動画サイトの特性を理解し、生活リズムや安全面を検討する。また、利用にあたって、守るべきことを考え、より良い視聴の仕方を考える。

(3) 授業の構成

| | | |
|-----|-----------------|---|
| 導入 | 問題の発見 | 事前アンケート結果や発問から自己の使い方を意識し、本時の目標につなげる |
| 展開 | やめられない理由 | 簡単に利用が止められない理由を考え、課題解決につなげる |
| | 解決方法の話し合い | 約束を守る方法を話し合い、具体的に考える |
| | 目標設定 | 動画サイトとのつきあい方の約束を具体的に考える |
| まとめ | 振り返り 保護者への伝達 | 本時の感想をまとめる 家庭で保護者に学んだことを伝え、話し合い、保護者と一緒に約束を確認する |
| 事後 | 事後の確認 | 保護者宛て文書を配布する。 チェックシートで確認する。 |

図1：授業の構成

(4) 教材の概要

- 1・指導案
プレゼンデータと連動し、指導者の発問と児童の予想される応えを記入した指導案台本。
- 2・ワークシート
2年生用、3年生用を作成した。
- 3・プレゼンデータ
教室でプレゼンテーション、または印刷しキーシーンとして使用する。
- 4・紙芝居
プレゼンテーションの一部を印刷し、紙芝居として使用できる。
- 5・事前保護者アンケート
学習前に児童のインターネット利用調査を保護者に実施し、実態を掴む。
- 6・保護者宛て文書
学習後、保護者に配布する文書。学習内容、子どもへの対応の仕方が書かれている。

2 実践の結果

動画サイトの視聴をやめられない理由では、「面白い動画が次々出てきてなかなかやめられ

ない」という意見が最も多かった。どうすればやめられるか、という話し合いでは、「家の人と一緒に見る」「新しい動画が出て見ない」

「時間が来たら親に預かってもらう」などの意見が出された。まとめでは、「夜8時以降は見ない」「家族のいる前でしか見ない」「布団の中では見ない」など具体的な約束が示された。

(図2) 保護者のワークシート記述では、「スマホを持たせて使わせていたが、これからは時間を決め一緒に見ようと話し合った」など、学習内容に関心を持ち、話し合う様子が示された。



図2：授業の様子（動画がやめられない理由）

4 考察

本教材の実践を通し、児童は、動画サイトの視聴がなかなかやめられない理由と解決策を話し合い、保護者とともに、適切に利用をしようという前向きに考えることが一定程度できることがワークシート記述などにより示された。

6 今後の課題

今後は、本教材の実践を継続調査し、効果の検証を続け、低学年で活用しやすい教材として更に改良を加えたい。

参考文献

- (1) 今度珠美・稲垣俊介(2017), 「スマホ世代の子どものための主体的・対話的で深い学びに向かう情報モラルの授業」, 日本標準
- (2) 内閣府「低年齢層の子供のインターネット利用環境実態調査」(2017)
http://www8.cao.go.jp/youth/youth-harm/chousa/h28/net-jittai_child/pdf-index.html (Access 2017. 8. 15)